

1. 経営状況報告

2. 2026年3月期 第3四半期決算報告

3. 2026年3月期 通期見通し

2026年3月期 Q3：ポイント

Q3累計実績 (前年比)

- **売上収益** : **4,839億円** (前年比 **▲287億円**)
 - **営業利益** : **▲1,036億円** (前年比 **▲1,117億円**)
 - **当期利益*** : **▲872億円** (前年比 **▲934億円**)
- 売上収益は、コンポーネント事業以外の事業セグメントでの販売減少や為替影響により減収
- 営業利益は、半導体装置事業・インダストリアルソリューションズ事業の構造改革効果や精機事業での事業譲渡益があった一方、デジタルマニュファクチャリング事業における非金融資産の減損損失(906億円)、映像事業の製品ミックス変化による下振れにより大幅な営業損失に転じた

Q3実績 (前年比)

- **売上収益** : **1,710億円** (前年比 **▲89億円**)
 - **営業利益** : **▲988億円** (前年比 **▲1,011億円**)
 - **当期利益*** : **▲925億円** (前年比 **▲958億円**)
- 売上収益は、為替効果があった一方、主に精機事業における販売減少により減収
- 営業利益は、減収による減益に加え、デジタルマニュファクチャリング事業における非金融資産の減損損失、映像事業でのプロモーション費用増加による下振れ、ヘルスケア事業での引当金増額(14億円)などにより大幅な営業損失に転じた

2026年3月期 Q3累計：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期	26年3月期	前年比	
	Q3累計実績	Q3累計実績	増減額	増減率
売上収益	5,126	4,839	▲287	▲5.6%
営業利益	81	▲1,036	▲1,117	-
営業利益率	1.6%	▲21.4%	▲23.0P	-
税引前利益	108	▲1,018	▲1,126	-
税引前利益率	2.1%	▲21.0%	▲23.1P	-
当期利益*	62	▲872	▲934	-
当期利益率	1.2%	▲18.0%	▲19.2P	-
FCF	▲114	▲428	▲314	-
為替：USドル	153円	149円	売上収益への影響 ▲21	
ユーロ	165円	172円	営業利益への影響 ▲120	

Q3累計における営業利益への関税影響は▲51億円

2026年3月期 Q3累計：セグメント別業績

単位：億円	25年3月期	26年3月期	前年比	
	Q3累計実績	Q3累計実績	増減額	増減率
映像事業	売上収益 438	2,356 2,290	▲66 ▲229	▲2.8% ▲52.2%
	営業利益 18.6%	209 9.1%	▲9.5P	
	営業利益率			
精機事業	売上収益 ▲6	1,249 1,046	▲203 +12	▲16.3% -
	営業利益 ▲0.6%	6 0.6%	+1.2P	
	営業利益率			
ヘルスケア事業	売上収益 21	815 790	▲25 ▲27	▲3.1% -
	営業利益 2.7%	▲6 ▲0.9%	▲3.6P	
	営業利益率			
コンポーネント事業	売上収益 36	490 518	+28 +30	+5.7% +82.0%
	営業利益 7.4%	66 12.8%	+5.4P	
	営業利益率			
デジタルマニュファクチャリング事業	売上収益 ▲102	182 ▲1,034	▲16 ▲932	▲8.8% -
	営業利益 ▲55.8%	▲620.7%	▲564.9P	
	営業利益率			
その他（含、全社費用等）	売上収益 ▲306	31 ▲277	▲4 +29	▲13.1% -
	営業利益 1.6%	81 ▲1,036		
連結	売上収益 営業利益 営業利益率	5,126 81 1.6% 4,839 ▲21.4%	▲287 ▲1,117 ▲23.0P	▲5.6% -

2026年3月期 Q3：映像事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	839	2,356	840	2,290	+1	▲66
営業利益	150	438	58	209	▲92	▲229
営業利益率	17.9%	18.6%	6.9%	9.1%	▲11.0P	▲9.5P
レンズ交換式 デジタルカメラ	26万台	67万台	26万台	74万台	±0万台	+7万台
交換レンズ	37万本	102万本	36万本	103万本	▲1万本	+1万本

- **前年比（Q3累計）**：RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に販売台数は増加したものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響などもあり減収減益

2026年3月期 Q3：精機事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	434	1,249	348	1,046	▲86	▲203
営業利益	▲15	▲6	▲24	6	▲9	+12
営業利益率	▲3.8%	▲0.6%	▲7.0%	0.6%	▲3.2P	+1.2P
FPD露光装置	10台	26台	7台	22台	▲3台	▲4台
半導体露光装置 新品／中古	2/0台	6/6台	3/0台	11/1台	+1/±0台	+5/▲5台

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、ArF露光装置及びFPD露光装置の販売台数減少により減収。営業利益は、減収の影響はあるものの、FPD露光装置の製品ミックス変化および上期に計上したウェハ接合技術の事業譲渡益等により増益

2026年3月期 Q3：ヘルスケア事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	264	815	278	790	+14	▲25
営業利益	8	21	▲9	▲6	▲17	▲27
営業利益率	3.3%	2.7%	▲3.7%	▲0.9%	▲7.0P	▲3.6P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売停滞の影響により減収。営業利益は、経費抑制も、販売減や関税影響に加え、アイケア関連の一部取引に係る引当金の額を増額（14億円）したことにより減益

2026年3月期 Q3：コンポーネント事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	186	490	167	518	▲19	+28
営業利益	22	36	14	66	▲8	+30
営業利益率	11.7%	7.4%	8.2%	12.8%	▲3.5P	+5.4P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収。営業利益は、増収による増益に加え、インダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での前年一時費用の剥落や構造改革効果、製品ミックスの変化による収益性向上により増益

2026年3月期 Q3：デジタルマニュファクチャリング事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	65	182	68	166	+3	▲16
営業利益	▲38	▲102	▲945	▲1,034	▲907	▲932
営業利益率	▲57.5%	▲55.8%	▲1,381.8%	▲620.7%	▲1,324.3P	▲564.9P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンターの販売台数減少により減収。営業損失は、販売減による粗利減および経費増加に加え、SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に減損損失(906億円)を計上したことにより拡大

1. 経営状況報告
2. 2026年3月期 第3四半期決算報告
3. 2026年3月期 通期見通し

2026年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益

- **全社見通し 6,750億円** (前回予想から50億円下方修正)
 - 主にヘルスケア事業やデジタルマニュファクチャリング事業での販売計画引き下げにより下方修正

営業利益

- **全社見通し ▲1,000億円** (前回予想から1,140億円下方修正)
 - 映像事業：Q3販売実績を踏まえ、110億円下方修正
 - 精機事業：Q4に棚卸資産評価損の計上を見込み、40億円下方修正
 - ヘルスケア事業：引当金増額に加え、販売計画を見直した結果、25億円下方修正
 - デジタルマニュファクチャリング事業：非金融資産の減損損失の計上に加え、販売計画を見直した結果、940億円下方修正
 - その他（含む全社費用）：遊休資産売却に伴う費用増加等を見込み、25億円下方修正
 - 通期の関税影響は70億円を見込む（前回予想から5億円縮小）

当期利益*

- **全社見通し ▲850億円** (前回予想から1,050億円下方修正)

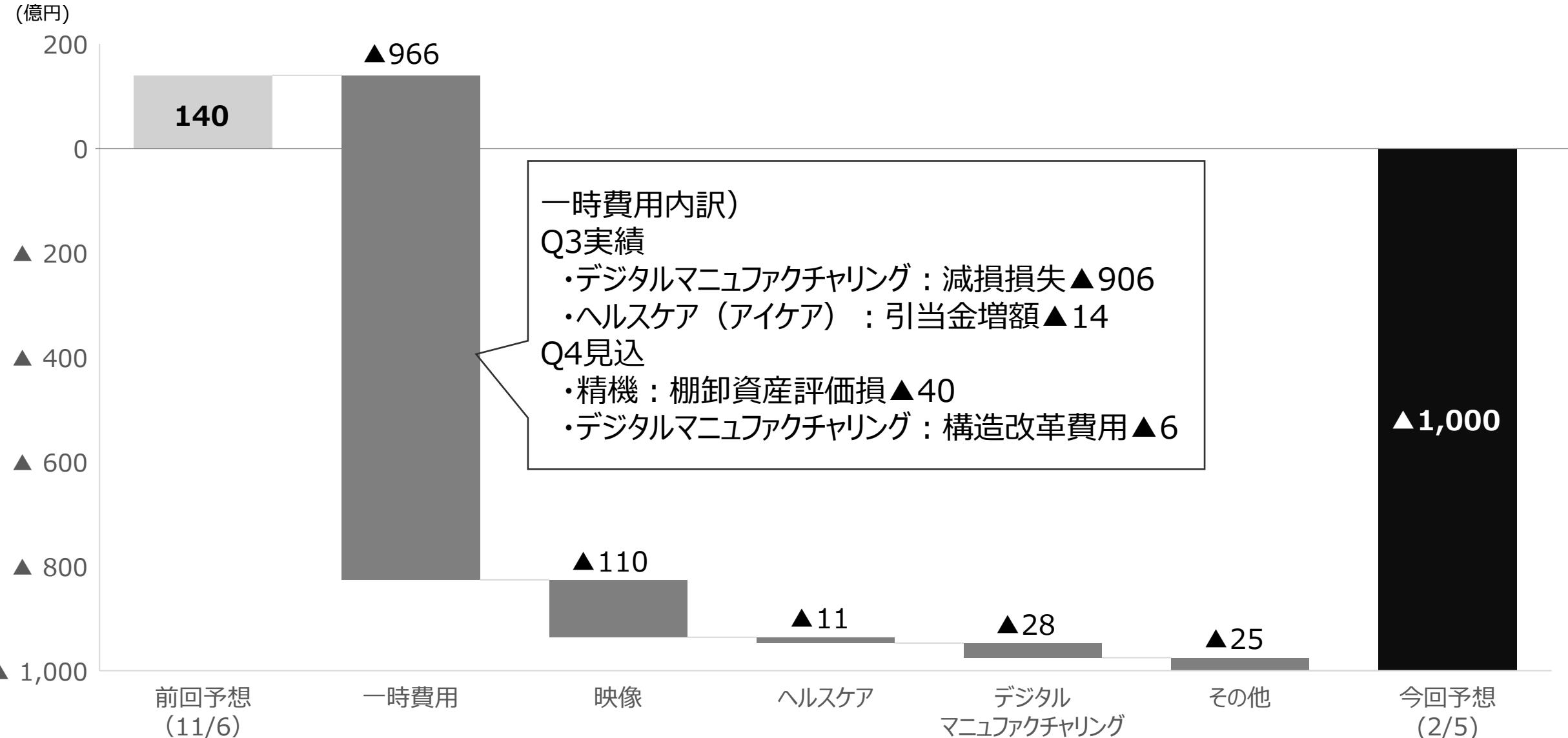
株主還元

- **期末配当金15円、年間配当金40円** (前回予想から10円下方修正)

為替前提

- **USドル 149円、ユーロ 173円** (Q4は、USドル 150円、ユーロ 175円)

前回予想（11/6）からの営業利益の変動要因



2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 実績	前回予想 (11/6)	今回予想 (2/5)	前年比	前回予想比
売上収益	7,152	6,800	6,750	▲402	▲50
営業利益	24	140	▲1,000	▲1,024	▲1,140
営業利益率	0.3%	2.1%	▲14.8%	▲15.1P	▲16.9P
税引前利益	45	160	▲980	▲1,025	▲1,140
税引前利益率	0.6%	2.4%	▲14.5%	▲15.1P	▲16.9P
当期利益*	61	200	▲850	▲911	▲1,050
当期利益率	0.9%	2.9%	▲12.6%	▲13.5P	▲15.5P
ROE	0.9%	3.1%	▲14.1%	▲15.0P	▲17.2P
EPS	17.86円	60.78円	▲258.29円	▲276.15円	▲319.07円
年間配当	50円	50円	40円	▲10円	▲10円
為替：USドル	153円	146円	149円	売上収益への予想影響 ▲3 +116	
ユーロ	164円	169円	173円	営業利益への予想影響 ▲111 ▲30	

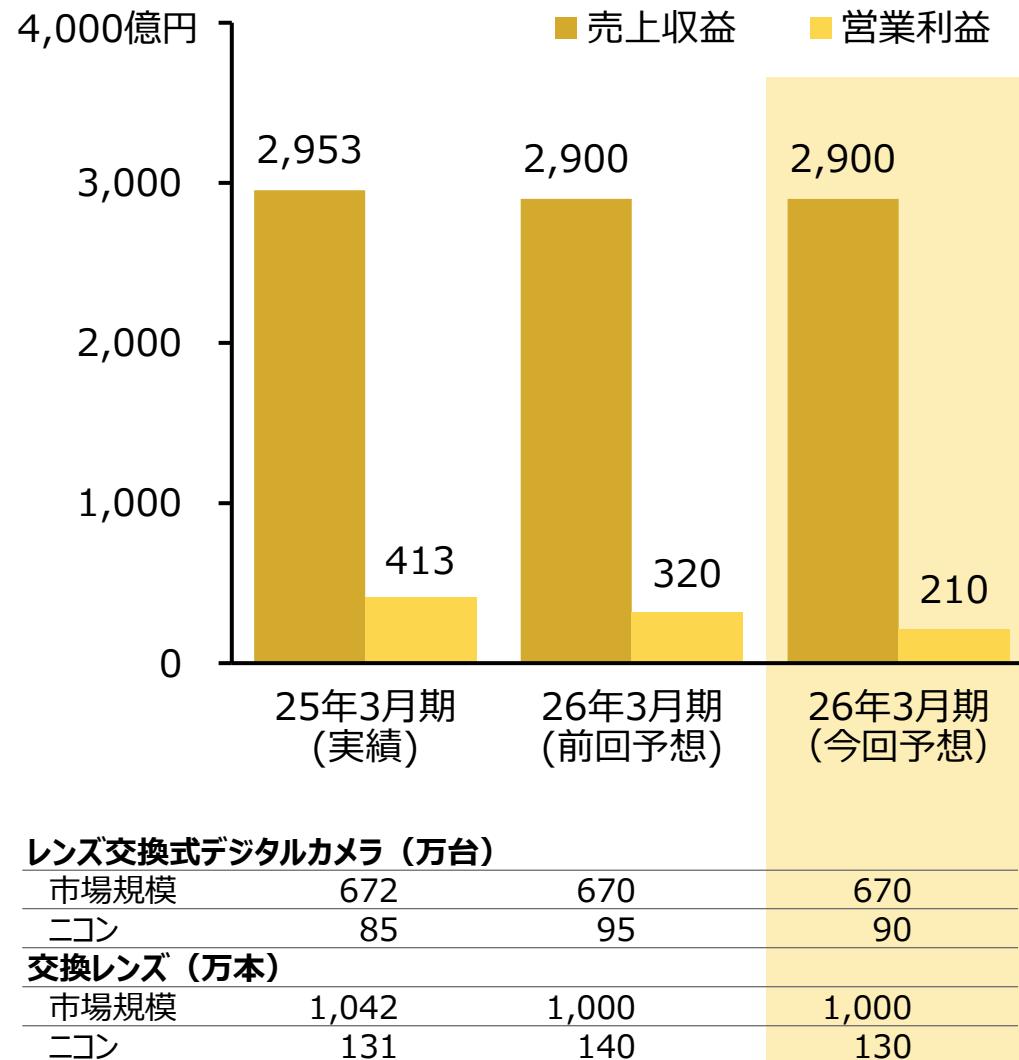
* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：前回予想約329.0百万株、今回予想約329.0百万株

2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

単位：億円	25年3月期実績	前回予想 (11/6)	今回予想 (2/5)	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益 413 14.0%	2,953 320 11.0%	2,900 210 7.2%	▲53 ▲203 ▲6.8P	- ▲110 ▲3.8P
	営業利益				
	営業利益率				
精機事業	売上収益 15 0.8%	2,019 50 3.1%	1,630 10 0.6%	▲369 ▲5 ▲0.2P	+20 ▲40 ▲2.5P
	営業利益				
	営業利益率				
ヘルスケア事業	売上収益 67 5.8%	1,164 50 4.4%	1,140 25 2.2%	▲44 ▲42 ▲3.6P	▲20 ▲25 ▲2.2P
	営業利益				
	営業利益率				
コンポーネント事業	売上収益 71 9.7%	741 100 12.7%	790 100 12.7%	+49 +29 +3.0P	- - -
	営業利益				
	営業利益率				
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益 ▲152 ▲65.2%	233 ▲110 ▲36.7%	300 ▲1,050 ▲420.0%	+17 ▲898 ▲354.8P	▲50 ▲940 ▲383.3P
	営業利益				
	営業利益率				
その他 (含、全社費用等)	売上収益 ▲391	40 ▲270	40 ▲295	- +96	- ▲25
	営業利益				
連結	売上収益 24 0.3%	7,152 140 2.1%	6,800 140 2.1%	▲402 ▲1,024 ▲15.1P	▲50 ▲1,140 ▲16.9P
	営業利益				
	営業利益率				

2026年3月期 通期見通し：映像事業



- 前回予想比：売上収益 ±0億円、営業利益 ▲110億円

- 前年比：売上収益 ▲53億円、営業利益 ▲203億円

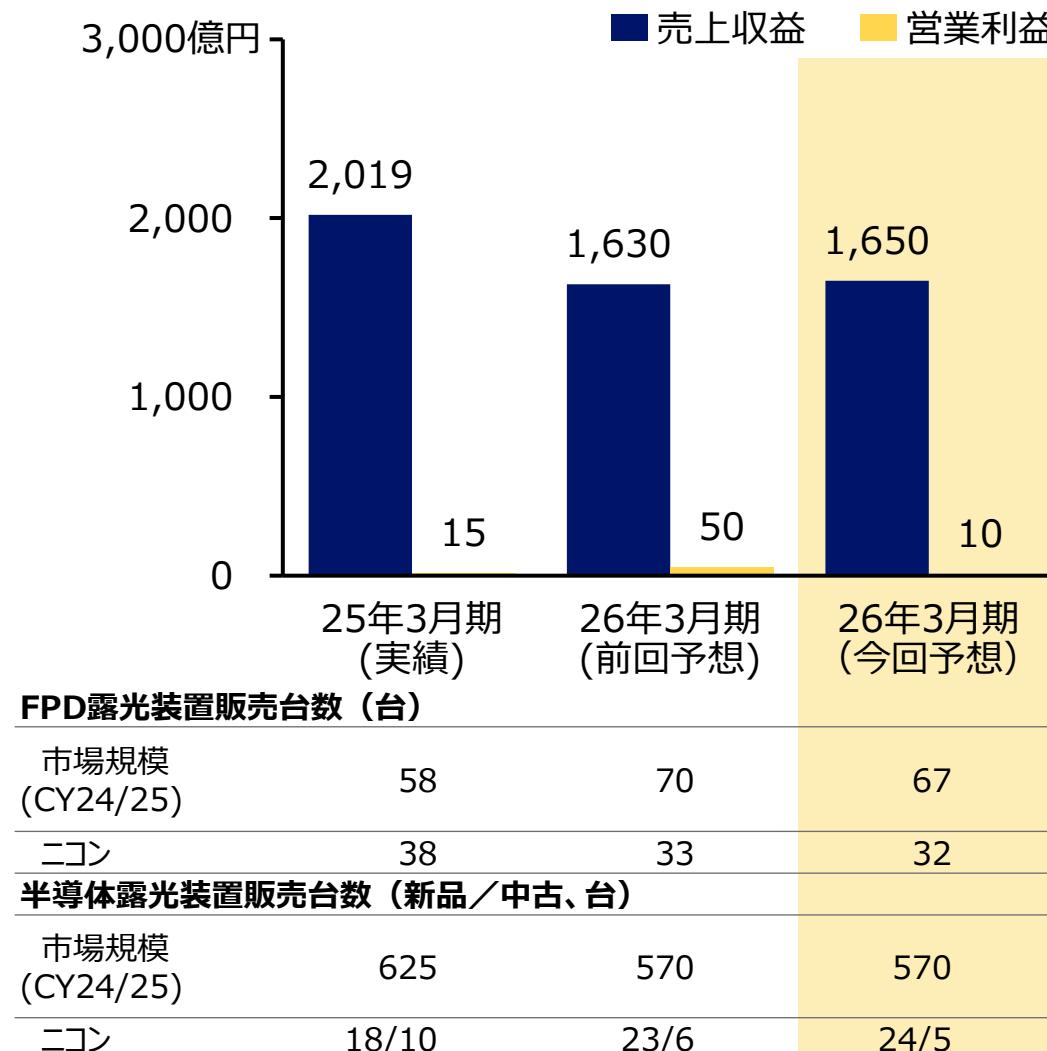
【前回予想比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込むも、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られる
- Q3実績を踏まえ販売台数を引き下げるものの、為替効果により売上収益は据え置き
- 営業利益は、販売台数の引き下げや競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加などにより110億円下方修正

【前年比】

- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に販売数量の増加を見込むものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響等により減収減益

2026年3月期 通期見通し：精機事業



- 前回予想比：売上収益 +20億円、営業利益 ▲40億円

- 前年比：売上収益 ▲369億円、営業利益 ▲5億円

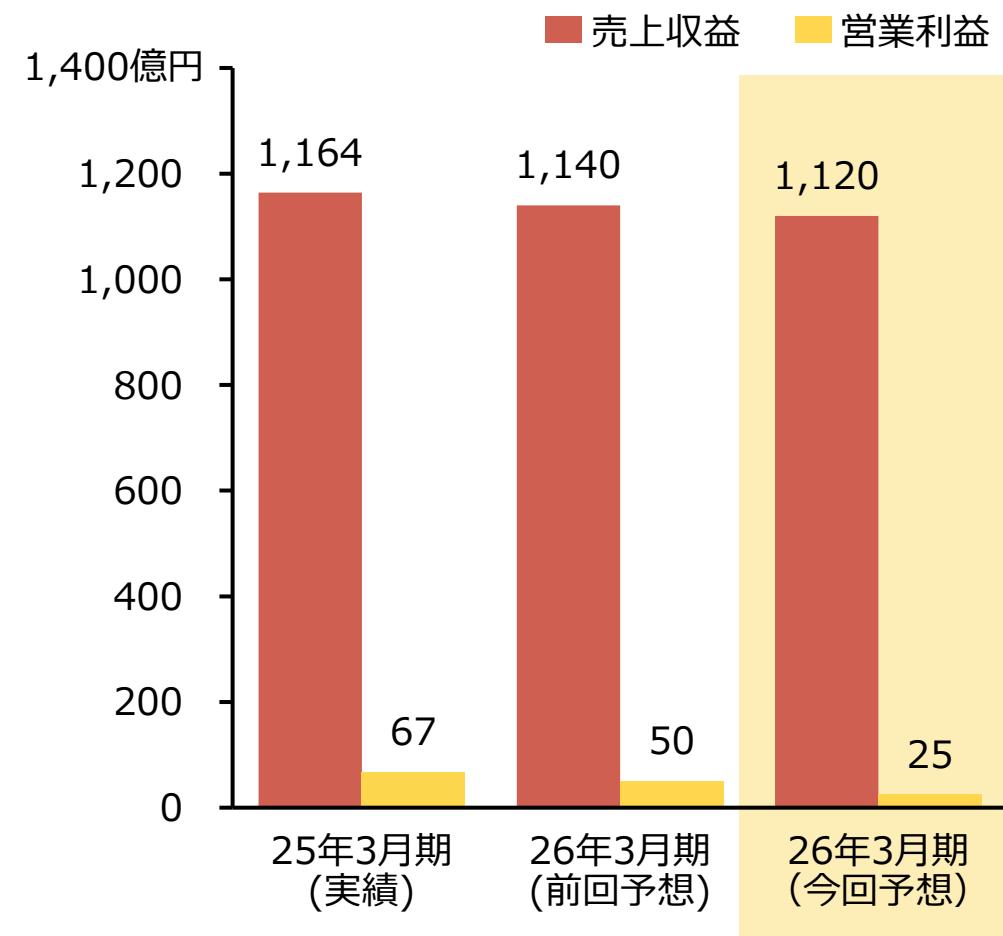
【前回予想比】

- 売上収益は、FPD露光装置の繰延もArF露光装置の前倒しにより20億円上方修正
- 営業利益は、Q4に棚卸資産の評価損計上を見込み40億円下方修正

【前年比】

- 売上収益は、FPD露光装置及びArF露光装置の販売台数減少やサービス収入の減少により減収
- 営業利益は、半導体装置事業の前年一時費用の剥落や構造改革効果があるものの、ArF露光装置の販売台数減少により減益
- 半導体装置事業では、今後の顧客の動向を見極めるとともに、生産・サポート体制の最適化を引き続き進め、損益分岐点を引き下げ、来期増益を目指す

2026年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



- 前回予想比：売上収益 ▲20億円、営業利益 ▲25億円

- 前年比：売上収益 ▲44億円、営業利益 ▲42億円

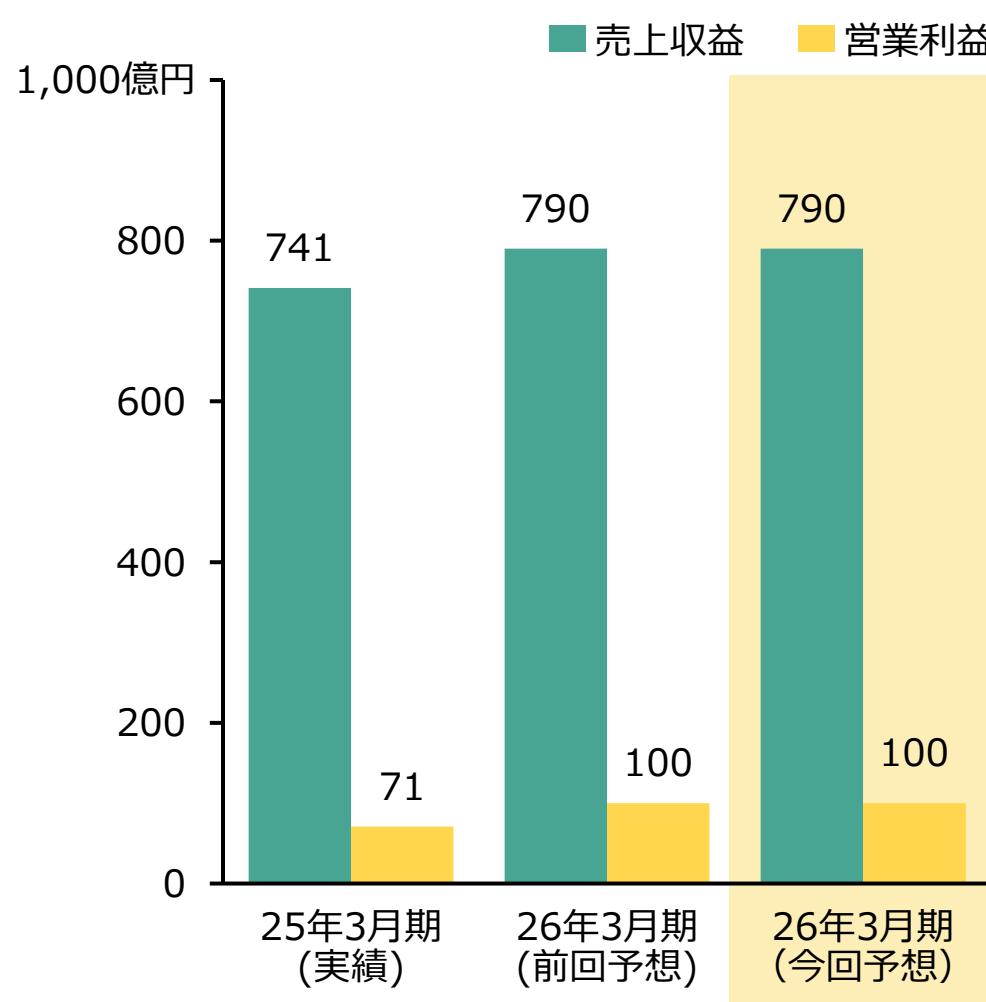
【前回予想比】

- 主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売停滞の影響により、売上収益を20億円下方修正
- 経費抑制を進めるものの、ライフサイエンスの販売下振れやアイケアの引当金増額(14億円)により、営業利益を25億円下方修正

【前年比】

- ライフサイエンスは、主力の米国市場の停滞により減収。収益性改善を目指し高付加価値製品の拡販を継続する
- アイケアは、中国での販売低迷が懸念されるものの、欧米を中心に新製品の拡販を進め、通期では前年並みの売上収益を目指す
- 細胞受託生産は、来期以降の収益拡大を目指し、増産投資を進行中
- 事業全体の売上は、ライフサイエンスの米国における販売減等により減収。営業利益は、関税影響や引当金増額もあり減益を見込む

2026年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



- 前回予想据え置き
- 前年比：売上収益 +49億円、営業利益 +29億円

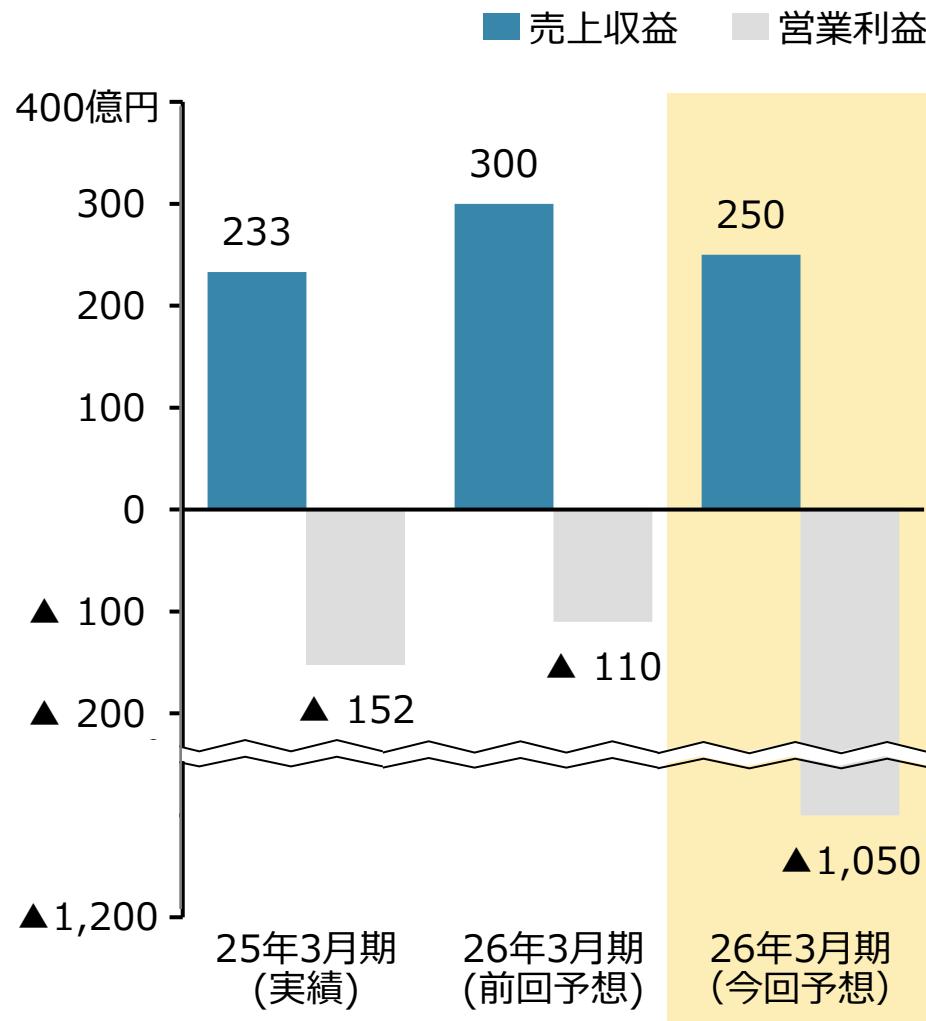
【前回予想比】

- EUV関連コンポーネントの下振れを他事業の上振れ及び経費削減により補い、据え置き

【前年比】

- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、下期の市況回復による販売増加を見込む
- 測定機器分野では、画像測定システムが好調に推移
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込む
- 増収効果に加え、前年発生したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革一時費用(18億円)の剥落と構造改革による収益性向上により、増益を見込む

2026年3月期 通期見通し：デジタルマニュファクチャリング事業



- 前回予想比：売上収益 ▲50億円、営業利益 ▲940億円
- 前年比：売上収益 +17億円、営業利益 ▲898億円

【前回予想比】

- SLM社の大型金属3Dプリンターの販売繰延等により、売上収益を50億円下方修正
- 営業利益は、販売減に加え、減損損失(906億円)および事業スリム化に伴う構造改革費用(6億円)により、940億円下方修正

【前年比】

- 競争環境が激化する中、金属3Dプリンター市場全体は横ばいの見通し
- 一方で、防衛・宇宙領域を中心に大型金属3Dプリンター市場の需要拡大を見込む
- 生産体制の最適化や経費抑制、研究開発の優先順位の明確化に加え、事業全体のスリム化を進め、損益分岐点を引き下げる

注：26年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費見込額：前回予想約40億円、今回予想約31億円

デジタルマニュファクチャリング事業：現状と今後の方針

現状

- 金属AM*普及率は、**防衛・宇宙市場**では想定通りだが、自動車市場等では想定より鈍化。業界全体の**成長率は低下**
- **中国メーカー**が台頭し、中国・東南アジア中心に一般産業市場でシェア獲得。大手競合も好調で、防衛・宇宙市場でも**競争激化**
⇒ 将来計画を全面的に見直した結果、のれん等の非金融資産を対象に**906億円の減損損失**を計上

減損損失の内訳			
(単位：億円)	対象資産	減損金額	減損後 残存簿価
Nikon SLM Solutions AG	のれん	▲605	-
ニコン単体 及び その他グループ会社	無形資産	▲262	32
事業全体	有形・無形 固定資産	▲38	
		▲906	

SLM社買収に伴う無形資産償却費は来期より約5億円に減少の見込み

今後 の方針

- **構造改革**を実施し、**損益分岐点を引き下げ**（組織のスリム化・費用削減等）
- R&Dについては、DED装置*の開発費用を絞り込み、**PBF装置***に注力
- 米国・欧州等の**防衛・宇宙市場**を中心に**中長期的な成長**を目指す

* 金属AM：金属3Dプリンターを用いたAdditive Manufacturing（付加加工）

* DED装置：ニコンで製造するDirected Energy Deposition方式の金属3Dプリンター

* PBF装置：SLM社で製造するPowder Bed Fusion方式の金属3Dプリンター